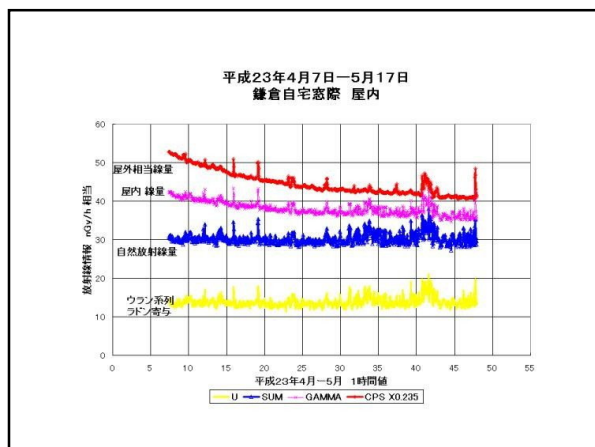
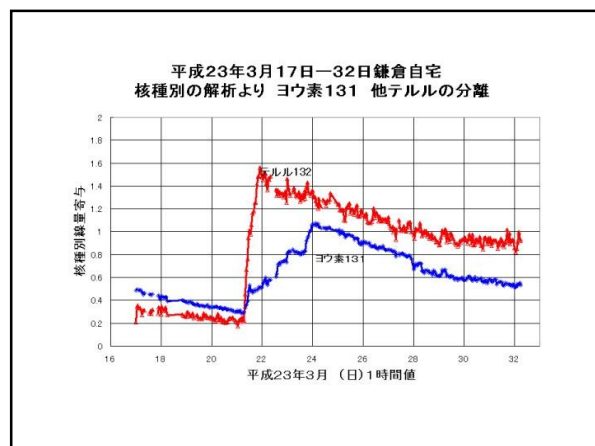
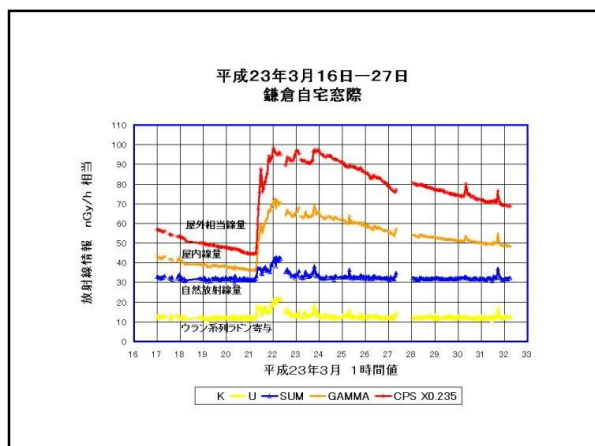




- ### 放射線強度内容の時系列変動
- 変動の要因は周辺環境に存在する放射性物質に関連するが、もっとも影響するのは環境に存在するラドンの寄与である。
 - 放射線測定器を特定の場所に設置して観測すると時系列変動がある。
 - ラドンは地殻に含まれるウラン系列の子孫が環境に放出されている。通常地殻から放出され、空間に拡散する。
 - 拡散したラドンは子孫 (Ra-B, Ra-C) のからのガンマ線が測定され放射線強度の変動が観測される。
 - 通常晴天時には昼夜の24時間のわずかな変動がある。
 - 降雨時には雨に含まれるラドン子孫核種からのガンマ線による放射線の増加が観測される。
 - 降雨時には地面が雨水でラドンが地表に留まること、大気中のラドン子孫の放射性物質が洗われ落ちてくるものと、雨に含まれている放射性物質が落ちてきて放射線強度が増す。これらは通常ラドン子孫の放射能の約半時間の半減期から雨が止むと2, 3時間でもとに戻る。

- ### 環境ガンマ線測定 スペクトロメトリー
- スペクトロメータによる環境放射線測定
 - シンチレーション検出器か半導体検出器か
 - 環境ガンマ線特性
 - 環境に存在する放射性物質からの放射線
 - 直接線 (Uncollided photons) 単色エネルギー
 - 散乱線 (連続エネルギー)
 - 直接線からは環境放射性核種の同定
 - 散乱線からは環境放射線の挙動と線量評価
 - 直接線測定には半導体スペクトロメータが有効
 - 散乱線を含む環境放射線線量測定にはシンチレーションスペクトロメータが有効

- ### 鎌倉市内の放射線の状況
- 計つて見ると
 - 場所による違い
 - 放射線の中身
 - 発電所の事故の影響
 - 放射線の影響を考える
 - 過去の環境放射線影響との比較
 - 今後の対応 (鎌倉市は的確な測定で対応)
 - 地表10cmと1mとの数値の差は15%

徒歩による測定



バイクに搭載した測定器

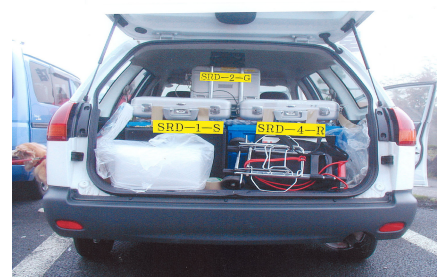


バイク搭載スペクトル測定システム



車両搭載各種スペクトル測定器

車両に搭載したスペクトロメータ



御成小学校での測定高さ1m



中央公園地上10cmでの測定

